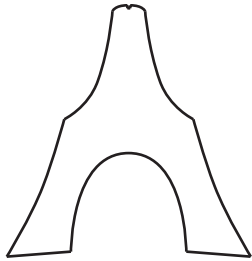


箏柱についての簡単な解説

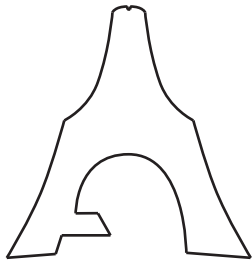
2019年3月28日 沖政一志 作成

基本的な箏柱ワンセットの内容



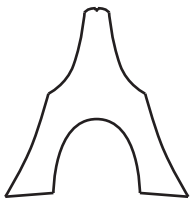
箏柱（ことじ） 12個

実際は箏の文字を略されて柱（じ）または御柱（おじ）と呼ばれることの方が多い。一から為の絃にかける。



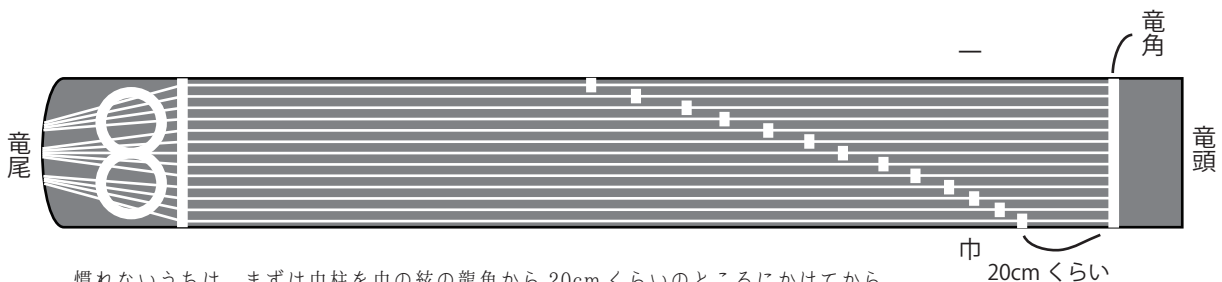
巾柱（きんじ） 1個

巾の絃にかける箏柱。

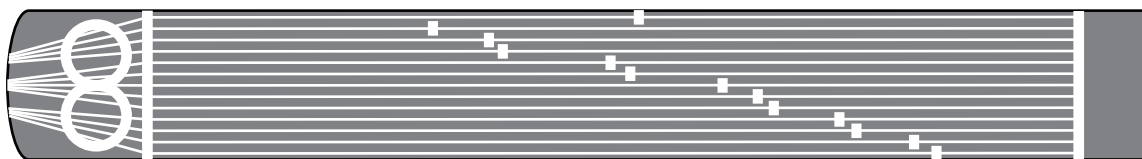


小柱（こじ） 1個

低い音が出ない時などに使用する補助的な箏柱。使わない場合が多い。無くさないように注意！



慣れないうちは、まずは巾柱を巾の絃の龍角から20cmくらいのところにかけてから、《巾の絃から一の絃》に向かって左斜めに3cmくらい間をとって柱をかけてください。



慣れてきたらあらかじめ例えば壱越平調子がとりやすい位置に、《一の絃から巾の絃》にむかって箏柱をかけていくとよいです。

箏柱はどちらの絃からかけたらよいですか？という質問をよくいただくのですが、そのときの事情によって異なります。箏に全然慣れていないような状態であればまずは巾柱を間違えずにかけて欲しいということが優先されるので、よって巾の絃からかけるように言いますが、慣れてきたら一の絃からあらかじめ平調子などがとりやすい位置にかけていくように指示内容が変わります。

…というわけで、最終的には一の絃から箏柱をかけるのがよい、ということになりますが、その過程で逆の指示が出ることもある、というお話でした。